

海外出張冷汗の件

平成2年6月9日から17日まで欧洲統計家会議に出席等のためスイスとルクセンブルグに出張。海外旅行はハプニングが必然と覚悟していたがひやひやどきどきの連続であった。

準備の一つにカードの他現金や旅行小切手(TC)をどのようにするかという問題がある。海外出張の経験の多い人達に現金だけという人が多いが、念のためカードの他現金とアメックスのTCを携行した。

経路は、英国航空(BA)でロンドン(ヒースロー)経由ジュネーブへ飛び、帰路ルクセンブルグ航空でジュネーブからルクセンブルグへ行き、更に同航空でヒースローへ飛びそこでBAで成田行きに乗り換えるというものであった。成田—ヒースロー間の航空券は往復ともパッケージ・ツアーのもので、指定の便を外すと他社の便はもちろん同じ航空会社の他の便も余裕がない限り利用できない。アジア太平洋統計研修所のO氏によるとルクセンブルグ航空はプロペラ機とのことで、悪天候の場合余裕をもってヒースローに着けるか気懸かりであった。特に同空港では乗継にターミナルの移動をふくめ最低75分を要すると資料にあるのが気懸かりでもあり、不審でもあった。

出発に際し、成田でBAの職員から成田—ヒースロー間の搭乗券と帰路のヒースロー—成田間の航空券はもちろん、往路の乗継のヒースロー—ジュネーブの搭乗券も渡され、不思議であった。更に、帰路ヒースロー—成田間は、リコンファームは不要とのことですます不思議であった。

往路の乗継は同じBAで乗継時間も3時間あつ

たので多少ロンドン到着が遅れても大丈夫と思っていたが、成田で1時間、アンカレッジで機体整備のため2時間遅れたためどうなるかと思ったが、フライト間の連絡が良かったとみえなんとか間にあうことができた。それでも乗継のターミナルでは、あらためて2回も手荷物のチェックがあり、しかも出発ゲートはターミナルのはるか端で、長い通路を息せき切って走るはめになってしまった。

ヒースローでの乗継が短時間であったため、ジュネーブではスーツケースが搭乗機と一緒に届かず愕然としたが、以前にも経験がありまた当座必要なものはオーバー・ナイト・バッグにいれておくという鉄則を守っていたので落着いて対処できた。

ジュネーブでは、念のためBAの支店でヒースロー—成田間のリコンファームを行い、ルクセンブルグ航空についてもリコンファームをと思ったが地図に出ていた場所には支店がない。JALの支店が搜してくれた在バーゼルのLuxairの支店に電話して漸くなりコンファームできた。スイス有数の都市にもかかわらず事務所がないのには驚いた。

6月14日ジュネーブからルクセンブルグへ。出発は午後2時。十分の余裕をもって空港に着いた。時間になって通路を進むと頭上の時計は1時59分を指している。心臓が停まるような思い。更に通路も間違っていることが判り慌てて引返すと先程の時計の反対側は0時59分となっていて一安心。飛行機は聞いていた通りプロペラの小型機であった。

6月16日ルクセンブルグを発って帰路に。天候

総務庁統計局統計基準部

統計審査官 田中益穂

は晴れ穏やか。空港へタクシーを利用するには現地通貨が足りないので、銀行にT Cの交換にいった所、どこも閉まっている。不審に思ってホテルに帰りフロントで聞くと今日は土曜日で休みという返事。そこでホテルで交換してもらった。大都市ならいざ知らず、片田舎のルクセングルグのホテルで円を現地通貨に交換してもらえるか疑問で、アメックスのT Cの携行は正解であった。

ルクセングルグ空港は仙台空港ていどの大きさ。小規模ながら免税店も営業している。土産の定番の中タバコはアンカレッジで、チョコレートはジュネーブで購入済み、酒は重いのでヒースロウで購入の予定にしていたが延着等の万一の事を考えここで購入した。

ヒースロウへは定刻到着。成田への乗継は問題無しとターミナル4へ移動。移動のバスは日本のツアーカーで満員。ターミナル4では乗継にもかかわらず手荷物の検査があり、次いでBAのトランシファー・デスクで航空券を搭乗券に替えなければならない。同ターミナルからはBAの欧洲以外へのフライトがすべて発着するので、トランシファー・デスクは長蛇の列、筆者の番になるまで1時間かかった。担当の職員は端末のキーを盛んに叩きあちこち電話している。心配になって具合の悪いことがあるのかと聞くと、座席がなんとかといいながら搭乗券をくれたのでやれ一安心と進むとまた手荷物の検査、次いでまたゲートがあって最初に乗った空港からスーツケースが確実に到着しているかのチェックを実施している。ここで漸く乗継に最低75分かかるということが判った。こ

こで意外なことにあなたの席は予約の便ではないという。驚いて、念の為ジュネーブでリコンファームしたというとカストマーズ・デスクへ行けという。そこでは問題はないといって搭乗券に座席番号を記入してくれた。やれ一安心と免税店で買物をと思ったが、トラブルの際でもあるので搭乗ゲートへ直行し飛行機に乗り込んだ。間もなく同じ搭乗券を持ったツアーカー客が現れた。しばらくしてわかったことは、両者ともイニシャルがM. TANAKAでBAのコンピュータにはM. TANAKAが一名しかインプットされておらず、しかもツアーカー客は現地駐在員が手続済みでトランシファー・デスクをパスするため、M. TANAKAが予約通りの数で入っていないと、個人客の場合はアウトになる可能性があり、筆者の場合はまさにその可能性に当たったという訳である。このアクシデントも、パーサーが謝りにきて一件落着し両名とも予定の便で帰ることができた。空港のゆったりしたスペースに感心しつつ、BAの業務のお粗末さには唖然となった。それにしても、ルクセングルグで土産の酒を買っておいてよかったです。胸をなでおろした。往路に、乗継便の搭乗券を事前に成田で渡された意味がここで判った。

その他、買物を一時紛失したり、ジュネーブで荷物が届かなかったり、ホテルで鍵を部屋の中においたまま外に出るという失敗もあったが、NHKのラジオ英会話講座で旅先で困った時の英語という特集があり、それで覚えた表現がおおいに役立った。